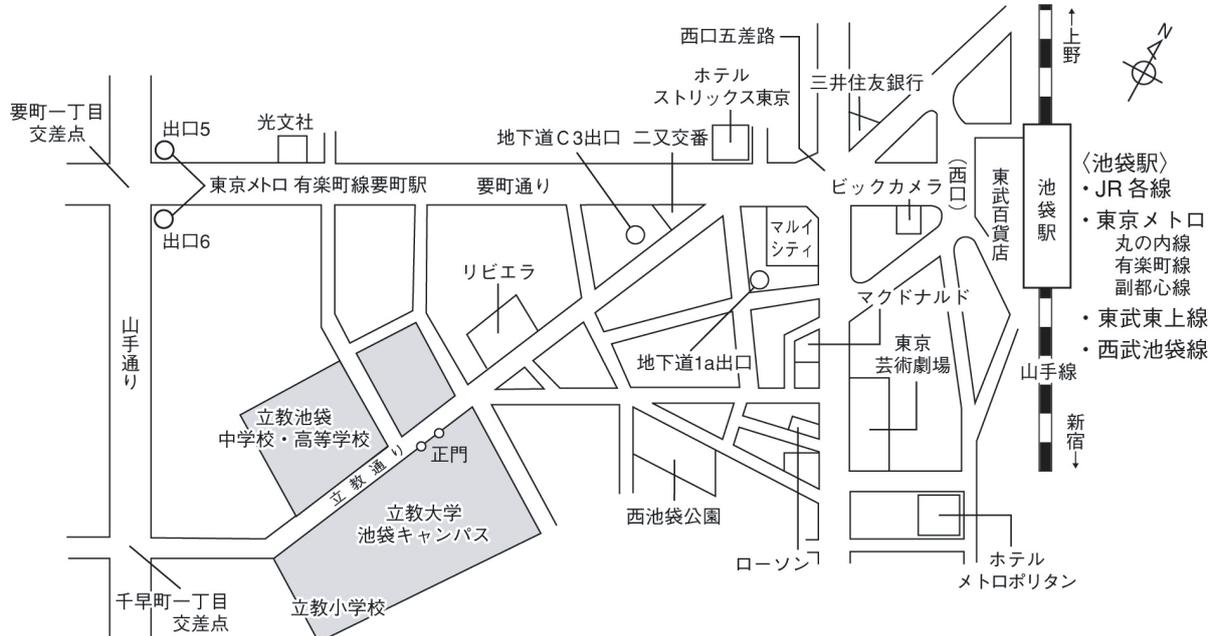


日本鳥学会 2008 年度大会

会期： 2008 年 9 月 12 日（金）～ 15 日（月）
 会場： 立教大学池袋キャンパス



池袋駅より約 15 分。池袋西口の地下道 C3 出口を出て、右方向 3 分で立教大正門。

12 日（金）

13 日（土）

14 日（日）

15 日（月）



【10号館】

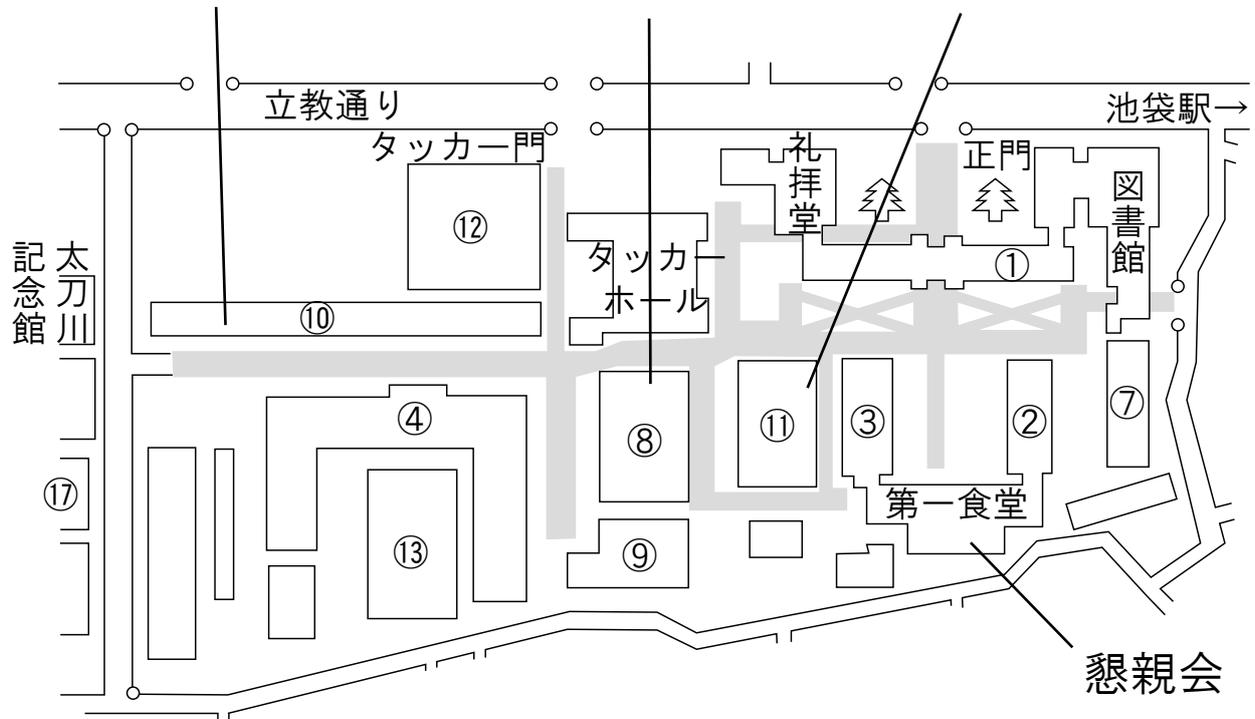
ポスター会場
自由集会2~6, 8, 9
休憩室, 業者展示
鳥の学校

【8号館】

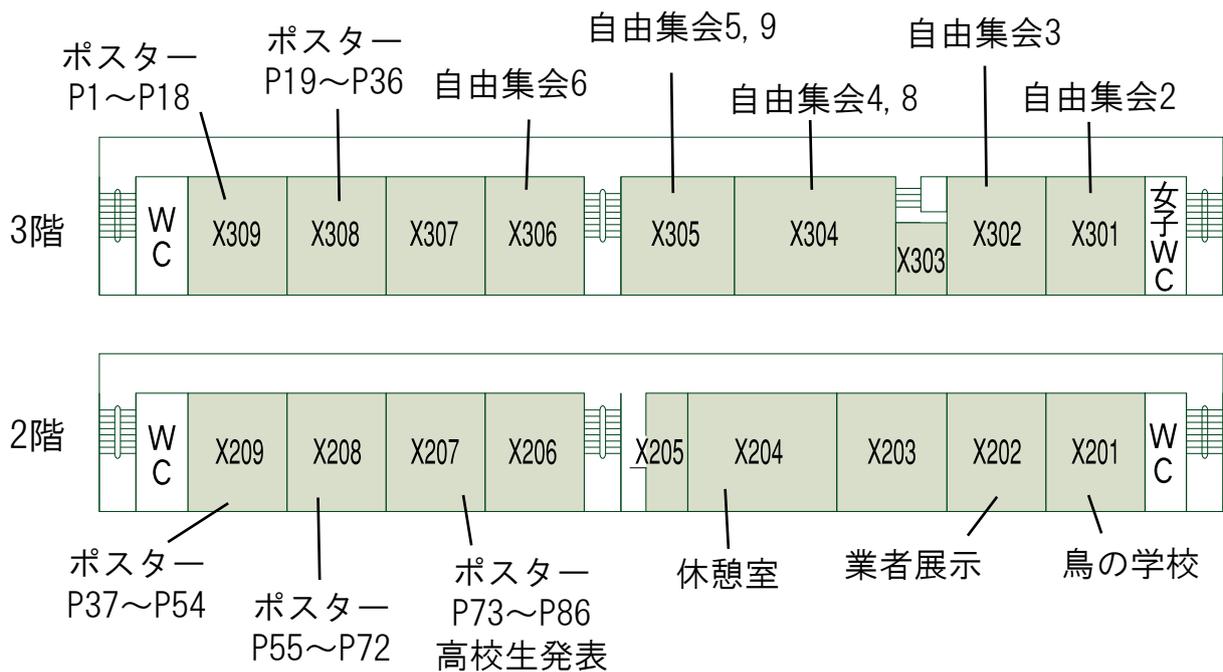
口頭発表B, C

【11号館】

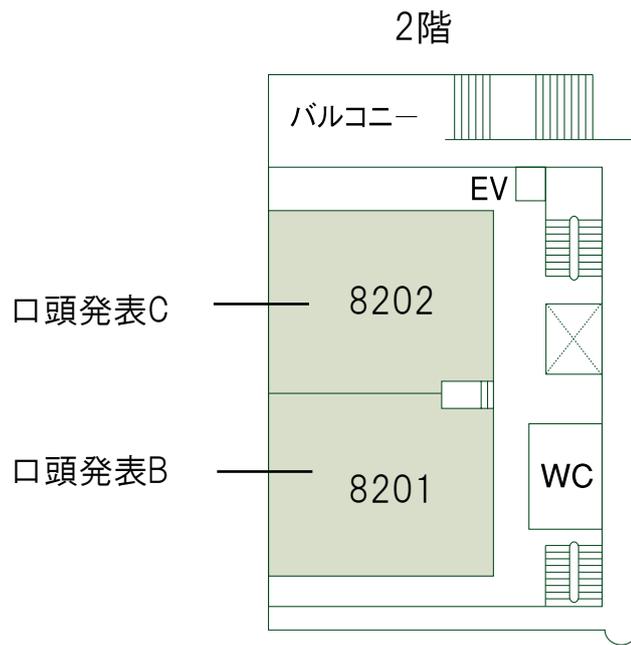
受付, 口頭発表A
公開シンポジウム, 総会
自由集会1, 7
休憩室, クローク, 本部



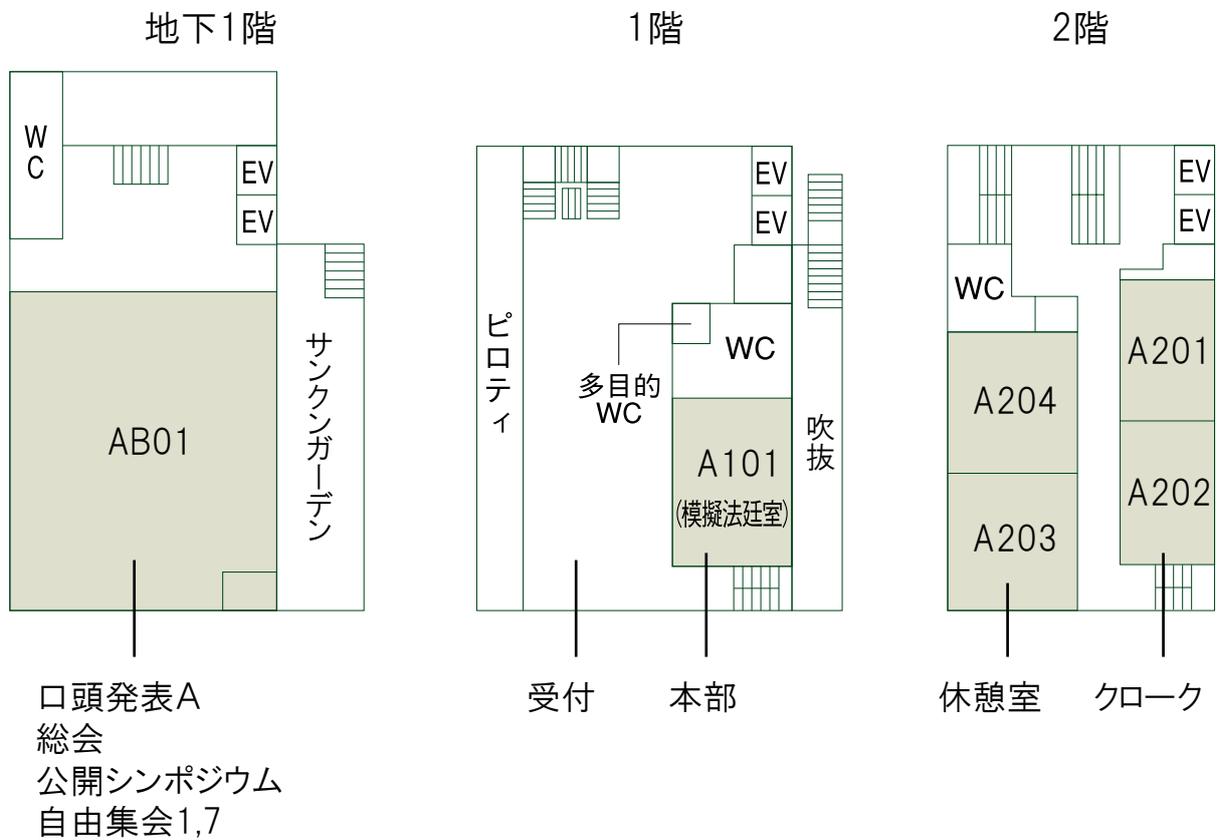
10号館詳細



8号館詳細



11号館詳細



受付

11号館1階で行います。受付時間は以下の通りです。

- 12日 16:30 から 18:00
- 13日 8:00 から 18:00
- 14日 8:30 から 18:00
- 15日 8:30 から 12:00

総会

14日の13時から15時まで、11号館地下AB01会場で行われます（口頭発表A会場と同じ会場です）。学会員の方は、極力ご参加ください。

口頭発表

発表時間12分、質疑応答2分30秒を厳守して下さい。以下の時間で鈴を鳴らします：各講演の持ち時間10分経過後に1鈴、12分経過後に2鈴、14分30秒経過後に3鈴。講演申し込み時に事前に事務局に連絡を出している方に限り、個人PCを、講演会場のプロジェクトに接続することができます。ただし、自分の講演時間内に接続、取り外しをしていただきます。個人PC接続における動作保証は致しかねますので、ご了承ください。

ファイル受付時間

口頭発表用のファイルを以下の時間に受け付けます。

- 12日 16:30 から 18:00
- 13日 8:00 から 18:00
- 14日 8:30 から 18:00
- 15日 なし

ファイル受付では、ファイルが正常にコピーされているか確認するだけで、修正作業を行うことはできません。大会本部では修正作業用のPCをご用意できませんので、個人PCをご持参のうえ、修正して下さいますようお願いいたします。

講演時間帯ごとのファイル提出期限

講演時間帯ごとのファイル提出期限は、以下のようになっています。

- 13日午前の講演 12日の18:00まで
- 13日午後の講演 13日の11:00まで
- 15日午前の講演 14日の18:00まで

提出期限までに提出のなかった講演については、キャンセル扱いになります。ただし、やむを得ない事情があった場合は、ファイル受付までご連絡ください。可能

な限り対応いたします。

ファイル形式

講演会場の備え付き PC の OS 環境は Windows Vista , 使用可能アプリケーションは、MS-PowerPoint2007 および Adobe Reader 8 です。受付可能なファイル形式は、ppt, pptx, pdf です。ファイルサイズの上限は 5MB です。

ポスター発表

ポスターボードのサイズは、横 90cm×縦 180cm です。ポスターの貼り付けには画鋏を使用できません。両面テープなどをご使用下さい(大会本部でも用意いたします)。ボード撤収作業があるため、15 日 12 時 30 分までにポスターをはがしてお持ち帰り下さい。

発表時間帯

奇数番号講演 13 日 15:30 から 18:00

偶数番号講演 14 日 9:30 から 12:00

ポスターを貼っておける時間帯(奇数番号講演・偶数番号講演ともに)

13 日 9:00 から 15 日 12:00

ポスター会場の開場時間

13 日 9:00 から 18:00

14 日 9:00 から 18:00

15 日 9:00 から 12:00

高校生発表

今年度も、高校生による発表の場を設けます。この高校生発表では、高校の部活動などで鳥類の研究をしている生徒たちに、自身の研究をポスター形式で発表してもらいます。14 日の総会終了時には、高校生による発表を奨励して、大会会長より賞の授与も行われます。

この高校生発表の狙いは、理科離れが進む昨今の状況にいる生徒たちに、より一層の科学的興味を持ってもらうことにあります。生徒たちには、研究者たちと討論することによって自身の研究についてコメントや助言を得てもらいたいと思います。また、さまざまな研究発表や研究者に直に触れることによって、学術的な情報を得たり、刺激を受けてもらいたいと思います。

大会参加者のみなさまには、ぜひ、高校生による発表を聞いて頂いて、彼ら、彼女らの研究の発展につながるようなコメントや助言をして下さるようお願いいたします。また、ご自身の研究を、高校生たちに説明する際には、言葉を補うなどの配慮をお願いいたします。

口頭発表における総合討論

今大会では、共通した研究テーマまたは分類群に応じて3~5件の口頭発表をセッションとしてまとめました。そして、それぞれのセッションの最後に、演者を中心として15分間の総合討論を行いたいと思います。

総合討論の狙いは、該当する共通テーマについて議論を深めて頂くことにあります。演者同士も、活発に議論を進めてください。

総合討論のもう一つの狙いは、参加者が持っている情報を交換し合うことにあります。参加者の方々は、自分の調査やバードウォッチングを通して、参加したセッションのテーマや、そのテーマに関わりのある鳥種について、さまざまな情報を持っていらっしゃるかと思います。その情報を、この機会にぜひ公開して頂ければと思います(自分はこんな観察をしたことがある、自分の住んでいる場所では、今の発表とは異なる傾向がある、など)。個々の観察だけではデータとして不十分でも、参加者の方々の観察をまとめると、その対象種、またはテーマについて意外な方向性が見えてくるかもしれません。この総合討論を機会として、そのような人同士のネットワークができることも期待しています。

もちろん、各講演の質疑の時間内では出来なかった質問を、総合討論の時間内にするなどして頂いても構いません。組み合わせの都合上、テーマとしてまとまりの弱いセッションもあるかと思いますが、その場合には、個々の発表に対する議論を深める場としてお使い下さい。ぜひ、この時間を有効に使って、活発な議論を進めてください。

なお、演者の方々には、可能な限りそのセッションの最初から最後まで当該会場にて総合討論に参加して下さいようお願いいたします。また、総合討論の際、演者の方々には会場の前の方にて頂くようお願いいたします。総合討論中は、会場備え付きのPCを使用できます。講演中に使った図表などを見せることも可能です。

ポスター賞

今大会では、ポスター講演のうち優れた講演に対して、大会会長から賞が贈られます。表彰は、14日のポスター講演時間の終了後、12時より10分程度かけて、ポスター会場(10号館3階)にて行われます。

賞を贈る目的

- ・すぐれたポスター講演を称えること。

期待する効果

- ・受賞を今後の研究の励みとしてもらう。
- ・良いポスター作りや講演技術を他の人々と競うことで、切磋琢磨してもらう。
- ・良い研究(良いポスター発表)がどんなものかを確認し、他の人が参考にする。
- ・学会の活性化と全体としての講演レベルの向上を目指す。
- ・受賞者が就職の際に有利となり、その分野の研究者が育つ。

選考対象

演者が選考されることを希望し、ポスター発表申し込み時にエントリーを行ったポスター講演（なお、高校生による発表も講演の形態という意味ではポスター講演にあたりますが、このポスター賞は学会員による発表のみを選考対象としています）。

選考部門

- ・若手部門(演者が 30 歳以下であること)
- ・全体部門(制限無し。30 歳以下の方は、若手部門と重複エントリーできる。また若手部門とのダブル受賞もありえる)

「30 歳以下とは 2009 年 4 月 1 日において 31 歳以下の方（今年度中に 31 歳になる方は若手部門にエントリー可能）」

賞

各部門につき、最優秀賞(1 名)、優秀賞(2 名)。ただし、同順位者がいればそれぞれに賞を贈る。各部門につき、最優秀賞だけで 3 名以上になった場合は、その部門では優秀賞は出さない。また、後述する合計得点を満たさない場合は、"該当講演無し"もあり得る。

選考方法

大会実行委員、もしくは実行委員会が依頼した複数の審査員により、採点制で評価する。

選考基準

ポスターデザイン、集客努力、講演技術、研究内容を中心に審査する。各講演を三人の審査員が評価する。評価は二段階で行われる。各審査員は、第一評価(5 点満点)で自分が 3 点以上の採点をした講演についてのみ、第二評価(10 点満点)を行う。一部の審査員から第二評価を受けなかった講演でも、3 人の審査員の合計得点によって判断するため、受賞の可能性は残る。評価を二段階にする理由は、ポスター講演の特徴として、優れたポスターデザインや呼び込みにより聴衆を引きつけ、研究内容を聴いてもらうことが第一に重要となってくるからである。

主な評価内容は以下の通り。なお、研究スタイル(例えば、記載的な研究なのか、理論的な研究なのか、仮説検証型の研究なのか)、または研究分野(例えば、生理生態なのか、行動生態なのか、系統分類なのか)によって不利となることがないように配慮する。

第一評価([]内は審査員一人あたりが持つ得点)

集客技術 [5 点]

- ・ポスターデザイン(情報が適度に要約されているか、見やすい配色・レイアウトであるかなど)
- ・呼び込み努力(積極的に声をかけているかなど)

第二評価(□内は審査員一人あたりが持つ得点)

研究内容 [10点]

- ・その分野に重要なテーマであるか(分野の進展に貢献するか。新規性・独創性を含む)
- ・問題解決へのアプローチが優れているか、仮説設定・実験計画・調査項目等が適切か(新規性・独創性を含む)
- ・取ったデータの量・質が議論を進める上で十分なものか
- ・解析手法が適切か
- ・議論・結論が妥当であるか

受賞基準

第一評価・第二評価で審査員三人合計の満点は45点となる。合計得点が一位でかつ25点以上の講演を最優秀賞とする。合計得点が二位・三位で、かつ合計得点が15点以上の講演を優秀賞とする。合計得点が一位でも25点未満(かつ15点以上)であれば、最優秀賞ではなく優秀賞として表彰する。合計得点によっては、該当講演無しが生じえる。また、優秀賞はあるけれど最優秀賞はない、最優秀賞はあるけれど優秀賞はない、ということも生じえる。

備考

受賞ポスターには受賞を示す印をつけてそれと分かるようにします。また、受賞者の同意が得られれば、大会ウェブサイトにてポスターをPDF化して公開します。

懇親会

公開シンポジウム終了後の、14日18時30分より第一食堂で行います。今大会は、愛鳥キャンペーン・環境活動をしているサントリー株式会社より協賛を頂いており、懇親会では、飲み物の提供をして頂くことになっています。

懇親会には定員があります。定員に達している場合は、当日申し込みによる参加を受け付けることが出来ません。当日申し込みによる参加が出来るかどうかについては、当日、受付にお問い合わせ願います。

懇親会場の入り口において、大会スタッフにより、懇親会費を支払い済みかどうかの確認をいたします。懇親会費を支払わずに懇親会に参加する方がいらっしゃると、懇親会費を払った方々に提供すべきサービスの一部を提供できないこととなりますので、大会本部として看過できません。厳しく対応いたしますので、ご了承お願いいたします。

業者による展示ブース

株式会社有沢製作所，株式会社興和，文一総合出版，東京大学出版会による展示および販売が10号館X202にて行われます。どうぞご利用ください。

会員による展示スペース

業者展示と同じ10号館2階202号室に、会員の活動等を紹介するスペースを設けます。希望者には一人に一つの教室机(幅60cm×奥行40cm×高さ60cm)をお貸しします。このスペースを使って、ポスター掲示、リーフレット等の配布をしていただくことができます。ポスター等を壁に直接貼ることはできませんので、大きさ・掲示方法、設置場所等について、なるべく事前に申し込みの上、担当者と確認・相談をしてください。展示スペースの割り振りは、申し込み順に配置いたします。

休憩室

ポスター会場のある10号館2階のX204と、受付のある11号館2階のA203に設置いたします。利用可能時間は以下の通りです。

- 12日 なし
- 13日 8:30 から 17:30
- 14日 8:30 から 17:30
- 15日 8:30 から 12:00

クローク

11号館A202に設置します(受付のあるロビーの1つ上のフロアです)。預かり時間は以下の通りです。

- 12日 なし
- 13日 8:30 から 18:00
- 14日 8:30 から 21:00
- 15日 8:30 から 12:15

会場内での撮影・記録について

著作権、肖像権を侵害しない範囲で行って下さい(口頭、ポスター、自由集会など、すべての形態の講演について、講演者に不利益が生じる形での記録を決してしないようお願いいたします)。

キャンパス内での喫煙について

立教大学の建物内は全て禁煙となっています。また建物外でもキャンパス内は、指定喫煙場所以外は禁煙となっています。喫煙の際は、かならず、指定喫煙場所をご利用下さるようお願いいたします。

鳥の学校

昨年と同様に日本鳥学会 2008 年度大会と連結して行われます。

日時：9/15（月）13:30 から 17:30、9/16（火）9:30 から 12:30

会場：10 号館 X201

テーマ：「統計的解析・中級編」

講師：山口典之（東京大学）

大会プログラム

公開シンポジウム

日時：9月14日（日）15時～18時

場所：立教大学11号館地下1階 AB01

コーディネーター：上田恵介

私は昔、京大を中心としたサル学の若い研究者がアフリカで調査しているのを見て、「ワシらも行きたいなあ・・・」と思っていた世代です。けれど、日本の若い鳥学者も、いまやどんどん海外へ留学して調査をしたり、さまざまな研究費で海外へ行けるようになり、時代も変わったなあと思います。

さて、今年の大会シンポジウムは海外と熱帯をキーワードに、開催したいと思います。私たちにあまりなじみのない熱帯の鳥。系統的に近縁の種類が温帯域にはいない鳥たち。同じような形態なのによく見ていると温帯の鳥では見たことのないような行動様式を持っている鳥たち。繁殖期が年1回かと思って調査をしてみたら、決まった繁殖期があるのかないのか、よくわからない鳥たち。温帯域の鳥とはまったく異なる、そんな熱帯の鳥たちを調べてきた元若手の方々に、熱帯域での海外調査と熱帯の鳥の特性について、海外における野外調査の醍醐味もふくめて、興味深い新発見を縦横に語っていただくというのがこのシンポジウムの趣旨です。

1．中村雅彦（上越教育大学）

マダガスカルには多くの固有種が生息しています。多様に適応放散したオオハシモズ類の行動と社会についてのお話しです。

2．江口和洋（九州大学）

オーストラリア北部のノーザン・テリトリーは乾季と雨季がある熱帯モンスーン気候の地域です。果てしなく広がるユーカリの疎林を舞台に、ヘルパーを持つ鳥たちの興味深い生態について語っていただきます。

3．北村俊平（日本学術振興会/立教大学）

長年にわたって、タイの熱帯林でサイチョウの調査をしてきた演者に、サイチョウが種子を散布してつくる熱帯の森とそこにすむさまざまな動物のお話しをしていただきます。

4．永田尚志（国立環境研究所）

マレーシア・パソの熱帯雨林で行った標識再捕調査による研究を中心に、多様なマレーシアの鳥類群集について、お話しいただきます。

5．パネルディスカッション

*シンポジウムは公開で行われます。大会参加者以外の方でも無料でお聞きになれます。事前申し込みも必要ありません。

日本鳥学会研究奨励賞成果報告

日時：9月13日（土）15時～15時30分

場所：立教大学11号館地下1階 AB01

森さやか（東京大院・農学生命・生物多様性）

繁殖集団の個体移出入となわばり環境評価によるアカゲラ個体群動態決定要因の解明

口頭発表（13日午前 A会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
9:00	0-A-1	ウミネコの巢防衛強度を決める要因	○風間健太郎, 綿貫豊（北大院・水産）
9:15	0-A-2	ハシブトウミガラスの餌選択と潜水行動 ～自身の餌vs雛の餌～	○伊藤元裕（北大・水産）, 高橋晃周（極地研）, 國分瓦彦（総研大）, S. Kitaysky (UAF), 綿貫豊（北大・水産）
9:30	0-A-3	水田環境で採食するチュウサギの空間分布に影響する要因	○片山直樹 ¹ , 天野達也 ² , 藤田剛 ¹ , 樋口広芳 ¹ (1. 東大・生物多様性, 2. 農環研・生物多様性)
9:45	総合討論		
10:00	0-A-4	亜種ダイトウコノハズク <i>Otus elegans interpositus</i> における近親交配の回避とつがい外受精の効果	○高木昌興 ¹ ・赤谷加奈 ¹ ・久保友美 ² ・松尾太郎 ¹ (1. 大阪市大・院理, 2. 大阪市大・理)
10:15	0-A-5	オーストラリアに生息するセンニョムシクイ類とアカメテリカッコウの托卵をめぐる攻防	○佐藤望 ¹ , 徳江紀穂子 ¹ , 上沖正欣 ¹ , Richard Noske ² , 上田恵介 ¹ (¹ 立教大, ² Charles Darwin University)
10:30	0-A-6	多重托卵のパラドックスに関する育児寄生者の個体群動態モデル	○高須夫悟（奈良女子大・理）, Csaba Moskat（ハンガリー科学アカデミー）
10:45	総合討論		
11:00	0-A-7	長期の絶食はオオミズナギドリヒナの成長に悪影響をもたらすか？	○越智大介 ¹ , 新妻靖章 ² , 伊藤元裕 ¹ , 佐藤克文 ³ , 綿貫豊 ¹ (1北大院・水産, 2名城大・農, 3東大・海洋研)
11:15	0-A-8	北部北太平洋で混獲されたハシボソミズナギドリによるプラスチック摂食について	○山下麗（北大院・水産）, 福若雅章（北水研）, 綿貫豊（北大院・水産）
11:30	0-A-9	GPSロガーによるペンギン2種の採餌空間と海洋環境利用の比較	○國分瓦彦（総研大・極域）, 高橋晃周（極地研）, 森貴久（帝京科学大）, 渡辺伸一（東大・海洋研）, Hyoung-Chul Shin（韓国極地研）
11:45	総合討論		

口頭発表（13日午前 B会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
9:00	0-B-1	ウズラにおける基礎代謝率と体組成の関係	○牛島明美, 新妻靖章 (名城大・環境動物)
9:15	0-B-2	雄化羽装のオナガガモ雌に関する追加情報、特に越冬期に見られた雄的誇示行動	○千葉晃 (日本歯科大学・新潟), 本間隆平 (新潟県野鳥愛護会)
9:30	0-B-3	ウミネコのテロメア変化と年齢の関係	○水谷友一 (名城大・環境動物), 富田直樹 (大阪市大・院理・動物機能生態), 風間健太郎 (北大・水産), 成田憲一, 成田章, 高橋弘樹 (基生研・形態形成), 長谷川理 (北大院・地球環境), 新妻靖明 (名城大・環境動物)
9:45	0-B-4	札幌市および周辺域におけるカラス類の鳥ポックス (Avian Pox) 症の大量発症とその拡大状況	○中村眞樹子 (札幌カラス研究会), 竹中万紀子 (東海大学生物理工学部), 福井大祐 (札幌カラス研究会・日本野生動物医学会認定専門医), 村上麻美 (岐阜大・応用生物), 柳井徳磨 (岐阜大・応用生物), 福士秀人 (岐阜大・応用生物), 山口剛士 (鳥取大学附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター)
10:00	総合討論		
10:15	0-B-5	ヤマドリの生態について	○高橋松人 (三重県野鳥研究会)
10:30	0-B-6	超小形鳥用アクティブRFIDの検討	○北野利彦, 十蔵寺寛, 中島功 (東海大学・医学部)
10:45	0-B-7	瀬戸内海におけるカムリウミスズメの生態 - 主に非繁殖期の生態と繁殖の可能性について -	○飯田知彦 (九州大・院)
11:00	0-B-8	魚食性鳥類営巣地土壌における無機態窒素の動態解析	○佐々木みなみ (岩手大・院・農業生命科学), 溝田智俊 (岩手大・農)
11:15	0-B-9	アオサギの繁殖コロニーの放棄は林床の植物群落をどう変化させたのか?	○上野裕介 (北大・水産), 野田隆史 (北大・地球環境), 堀正和 (瀬戸内水研)
11:30	総合討論		

口頭発表（13日午前 C会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
9:00	0-C-1	小鳥類の渡りのルート上への巨大風車群建設の問題点	北川捷康（静岡県渡り鳥研究会）
9:15	0-C-2	衛星追跡にもとづく陸ガモ類3種の渡り経路と移動パターン	○平岡恵美子 <small>山口典之、土方直哉（東大・農・生物多様性）、植田睦之、高木憲太郎（バードリサーチ）、時田賢一（我孫子市鳥博）、Jerry Hupp、John Pearce、Paul Flint（USGS Alaska Science Center）、嶋田智樹（伊豆沼サングチュアリス）、家淳樹（岩手大・農）、内田聖（里山自然史研）、真地正行（種を保護する会）、須川恒（鶴谷大・深澤学舎）、片岡直志（鳥類環境）、坂根隆治（伊丹市役所）、今野裕、奥山英和（鳥類保護協会）、渡辺ユキ（阿寒国際ツルセンター）、馬田勝</small>
9:30	0-C-3	オナガガモの春の渡り経路と行動特性：状態空間モデルによる解析	○山口典之 ¹ 、Jerry W Hupp ² 、樋口広芳 ¹ （1. 東京大院・農・生物多様性、2. USGS Alaska Science Center）
9:45	総合討論		
10:00	0-C-4	衛星追跡にもとづくサシバの渡り経路と移動様式	○土方直哉（東大・農・生物多様性）、時田賢一（我孫子市鳥博）、内田聖（里山自然史研）、東淳樹（岩手大・農）、山口典之（東大・農・生物多様性）、平岡恵美子（東大・農・生物多様性）、樋口広芳（東大・農・生物多様性）
10:15	0-C-5	ケアシノスリ、ノスリ、ハイイロチュウヒの渡り衛星追跡	○中山文仁 ¹ <small>平岡恵美子²、時田賢一³、内田聖⁴、土方直哉²、近藤義孝⁵、天野弘樹⁶、原田重介⁷、繁里規⁷、山口典之²、樋口広芳²（1自然環境研究センター、2東大・農・生物多様性、3我孫子市鳥の博物館、4里山自然史研究会、5日本野鳥の会三重県支部、6名古屋鳥類調査会、7きらら浜自然観察公園）</small>
10:30	0-C-6	衛星追跡にもとづくハチクマの春秋の渡りと環境利用	○樋口広芳 ¹ 、時田賢一 ² 、平岡恵美子 ¹ 、山口典之 ¹ 、土方直哉 ¹ 、内田聖 ³ 、中山文仁 ⁴ 、植松晃岳 ⁵ 、久野公啓 ⁵ 、佐伯元子 ⁵ 、堀田昌伸 ⁶ 、藤田祐樹 ⁷ 、中村浩志 ⁸ （1. 東大・農、2. 我孫子市鳥博、3. 里山自然史研、4.
10:45	総合討論		
11:00	0-C-7	小笠原諸島聳島の陸鳥2種の種子散布	○柴村奈緒子（鹿児島大農院生）、川上和人（森林総研）、出口智広（山階鳥研）、畑邦彦、曾根晃一（鹿児島大農）
11:15	0-C-8	果実食性鳥類の種子の排泄状況	○平田令子、平井周作（鹿児島大・院・農）、畑邦彦、曾根晃一（鹿児島大・農）
11:30	0-C-9	薪炭林管理は冬に里山の鳥の多様性を高める	○日野輝明（森林総研関西）
11:45	総合討論		

口頭発表（13日午後 A会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
13:00	0-A-10	北のフクロウが死んだ	○早矢仕有子, 杉野諒輔, 西森智彦 (札幌大・法)
13:15	0-A-11	北海道のスズメ個体群に対する2006年大量死の影響評価	○黒沢令子 ¹ , 越川重治 ² , 泉洋江 ³ , 長谷川理 ⁴ , (1. バードリサーチ, 2. 千葉・船橋東高, 3. 北大大学院・地環研, 4. エコ・ネットワーク)
13:30	0-A-12	風力発電機の野鳥の越冬に対する影響と, 風力発電機からの距離による野鳥の繁殖への影響	○武田恵世 (日本野鳥の会三重県)
13:45	総合討論		
14:00	0-A-13	アホウドリ雛の小笠原群島鴛島への移送および人工飼育	○出口智広 (山階鳥研), 佐藤文男 (山階鳥研), 仲村昇 (山階鳥研), 原田知子 (北大・水産), 渡辺ユキ (阿寒国際ツルセンター), Judy Jacobs (U.S. Fish&Wildlife Service), 尾崎清明 (山階鳥研)
14:15	0-A-14	アホウドリ <i>Diomedea albatrus</i> 巣立ちヒナの衛星追跡	○尾崎清明, 佐藤文男, 出口智広, 仲村昇 (山階鳥研), Rob Suryan (Oregon State Univ.)
14:30	0-A-15	やんばる地域の森林性鳥類による地上利用パターンと外来種侵入に対する脆弱性について	○小高信彦 (森林総研・九州支所), 久高将和 (国頭ツーリズム協会), 嵩原建二 (美咲養護学校), 佐藤大樹 (森林総研・九州支所)
14:45	総合討論		

口頭発表表（13日午後 B会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
13:00	0-B-10	野辺山高原におけるモズの Post-juvenile moult	○今西貞夫
13:15	0-B-11	豊田市自然観察の森における鳥 類群集の変化	松山なつみ, ○新妻靖章, 橋本啓 史（名城大学・農学部）, 大畑孝 二（日本野鳥の会・サンクチュア リ室）
13:30	0-B-12	雀：少ない(?)ふるとりー ズメは日本に何羽いるのか？ー	三上修（立教大学・理・動物生 態/日本学術振興会特別研究 員）
13:45	総合討論		
14:00	0-B-13	日本で越冬するコハクチョウの 増加要因	○小池重人（新潟市立大形中学 校）, 樋口広芳（東大・農・生 物多様性）
14:15	0-B-14	伊豆沼・内沼周辺地域で越冬す るマガンの個体数増加にともな う採食地利用パターンの変化	○嶋田哲郎（伊豆沼財団）, 溝 田智俊（岩手大・農）
14:30	0-B-15	渡去直前のガン類集団による起 生期麦類の摂食：宮城県北部・ 蕪栗沼周辺地域の事例	○溝田智俊（岩手大学農学 部）, 嶋田哲郎（宮城県伊豆 沼・内沼環境保全財団）
14:45	総合討論		

口頭発表表（13日午後 C会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
13:00	0-C-10	森林におけるハシブトガラスの分布	○松原始（東京大・総合研究博物館），森下英美子（文京学院大・環境教育）
13:15	0-C-11	諏訪湖における魚食性鳥類カワアイサの越冬個体数の急増について	○堀田昌伸 ¹ ，沢本良宏 ² ，浜田崇 ¹
13:30	0-C-12	京都府南部木津川下流域の農地における水鳥類の環境利用	○中津弘（大阪府大・大学院），前中久行（大阪府大・大学院），夏原由博（京大・大学院）
13:45	総合討論		
14:00	0-C-13	非繁殖期におけるカオグロガビチョウの行動圏内の環境利用	○寺田夏芽（我孫子市鳥の博物館），片岡宣彦（（株）鳥類環境），梶田学（日本鳥学会・日本産鳥類記録委員会），西教夫（都留文科大学地域交流研究センター），西野一雄（オオタカネットワーク）
14:15	0-C-14	カラスと水田の湿り具合がケリの営巣密度に与える影響	○脇坂英弥（兵庫県立大・環境人間），中川宗孝（巨椋野外鳥類研究会），伊藤雅信（京都工繊大・応用生物），江崎保男（兵庫県立大・自然研/環境人間）
14:30	0-C-15	ヤブサメはなぜ複数のさえずりパターンを持つか？	○上沖正欣 ¹ ，小川次郎 ² ，上田恵介 ¹ （1. 立教大・動物生態，2. 愛媛大・昆虫学）
14:45	総合討論		

口頭発表（15日 A会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
9:00	0-A-16	アオダイショウによる巣内捕食とコムクドリの営巣数の関係	○竹中万紀子（東海大・生物理工学部）
9:15	0-A-17	開放水面に営巣するカイツブリー人為がもたらす営巣場所の変化ー	○風間美穂（きしわだ自然資料館/兵庫県立大・環境人間学），江崎保男（兵庫県立大学・自然研/同・環境人間学/兵庫県立人と自然の博物館）
9:30	0-A-18	千曲川中流地域におけるモズの繁殖に外来性つる植物アレチウリが及ぼす影響	○笠原里恵，加藤和弘（東大・農院・緑地植物実験所）
9:45	0-A-19	モズの巣内雛の鳥マラリア感染リスク：媒介者密度と夜間抱雛の効果	○松井晋 ¹ ，津田良夫 ² ，村田浩一 ³ ，佐藤雪太 ³ ，土屋裕子 ¹ ，高木昌興 ¹ （1. 大阪市大・院理，2. 国感研・媒介昆虫，3. 日大・生物資源）
10:00	0-A-20	ルリカケスの繁殖生態（II）ー巣箱での営巣経過と繁殖行動の特徴、種内競争ー	○石田健 ^{1, 2} ，川口和範 ² ，高美喜男 ² ，鳥飼久裕 ² （1. 東京大学，2. 奄美野鳥の会）
10:15	総合討論		
10:30	0-A-21	カワウの骨格測定値の性別と年齢別による比較	○福田道雄（葛西臨海水族園・飼育展示）
10:45	0-A-22	富士川水系中流域における魚類相の変化ーコイ科魚類の減少とカワウ生息数の増加に注目してー	○坪井潤一 ¹ ，岡崎巧 ¹ ，芦沢晃彦 ¹ ，桐生透 ¹ ，大浜秀規 ¹ （1. 山梨県水産技術センター）
11:00	0-A-23	東京内湾コロニーにおけるカワウの食性	○戸井田伸一（神奈川東部漁港事務所）
11:15	0-A-24	カワウの採食における性差	○藤井英紀 ¹ ，黒木博文 ² ，井上裕紀子 ³ ，新妻靖章 ² （1. 名城大院・農，2. 名城大・農，3. 北大院・水産）
11:30	0-A-25	カワウの雌雄の飾り羽根と繁殖パラメーターの関係	○井上裕紀子 ¹ ，藤井英紀 ² ，黒木博文 ² ，新妻靖章 ² ，綿貫豊 ¹ （1. 北大院・海洋生態，2. 名城大・動物生態）
11:45	総合討論		

口頭発表（15日 B会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
9:00	0-B-16	ミトコンドリアDNAコントロール領域の解析によるクマゲラの遺伝的多様性に関する研究	○十河尚旗（弘前大・院・分子細胞遺伝）, 藤井忠志（岩手県博）, 長井和哉（弘前大・院・分子細胞遺伝）, 黒尾正樹（弘前大・生物・分子細胞遺伝）
9:15	0-B-17	クロツラヘラサギ <i>Platalea minor</i> における脱落羽毛等を用いた遺伝的構造の解析	○曹炯柱（九大・比文）, 鄭鐘烈（朝鮮大・教育）, 小池裕子（九大・比文）
9:30	0-B-18	Genetic differentiation of Carrion and Jungle crows in Sakhalin Island	○Kryukov A. (Inst. of Biology and Soil Sci., Vladivostok, Russia), Nakamura S. (Shimizudani High school, Osaka), Tomozawa M. (Hokkaido Univ., Sapporo), Suzuki H. (Hokkaido Univ., Sapporo)
9:45	総合討論		
10:00	0-B-19	極東地域及びアラスカにおけるメボソムシクイの亜種間の形態的差異と分類学的再考	○齋藤武馬 ¹ , 茂田良光 ¹ , 上田恵介 ² (1. 山階鳥研, 2. 立教大・動物生態)
10:15	0-B-20	鳥類DNAバーコーディングと種分化および種分類	○西海功 ¹ , 樋口亜紀 ¹ , 染谷さやか ² (1. 国立科博・動物, 2. 東大・農学生命科学)
10:30	0-B-21	ダチョウ、ウズラ、マガモ、カワラバト、ウミネコ、キンカチョウ、ハシボソガラスの鳴管筋の筋線維型の構成	○土屋剛, 町田恵祐, 千葉悟（石巻専修大学理工）
10:45	総合討論		
11:00	0-B-22	山階鳥類研究所・収蔵標本データベースプロジェクト	○山崎剛史（山階鳥研）
11:15	0-B-23	鳥類外部寄生虫からの病原体の検出	鶴見みや古 ¹ , 尾崎清明 ¹ , 藤田博己 ² , 坂田明子 ³ , 武藤麻紀 ³ , 高野愛 ³ , 4. 山内健生 ⁵ , 川端寛樹 ³ , 4. 安藤秀二 ³ , 岸本壽男 ³ (1. 山階鳥研, 2. 大原研究所, 3. 国立感染症研, 4. 岐阜大学, 5. 富山衛生研)
11:30	0-B-24	生物音声識別装置「ききみみずきん」による野鳥音声識別について	大庭照代（千葉中央博・生態）
11:45	総合討論		

口頭発表（15日 C会場）

時刻	番号	タイトル	発表者
9:00	0-C-16	北海道石狩平野のオオタカの繁殖状況	○工藤琢磨（森林総研・北海道），中嶋友彦（ごす企画）
9:15	0-C-17	オオタカが採食する餌動物の季節変化、性差、個体差について	○大堀聰（早大・自然環境），内田博（比企野生生物研）
9:30	0-C-18	環境容量に達するオオタカ個体群の動態シミュレーション	○青島正和（大成建設）
9:45	0-C-19	オオタカの渡りとGPSによる利用環境解析	阿部學 ¹ ，林聖元 ² ，○常永秀晃 ¹ （1. ラブタージャパン，2.（株）パスコ）
10:00	0-C-20	GPS情報に基づくクマタカの利用環境解析	阿部學 ¹ ，○林聖元 ² ，常永秀晃 ¹ （1. ラブタージャパン，2.（株）パスコ）
10:15	総合討論		
10:30	0-C-21	新潟県におけるイヌワシの繁殖状況・餌動物調査事例	長井義樹 ¹ ，小竹利明 ¹ ，○渡邊敬史 ² ，中野晋 ³ ，千田庸哉 ² ，長野紀章 ² （1. 国土交通省湯沢砂防事務所，2.（株）建設技術研究所，3. 環境設計（株））
10:45	0-C-22	チョウゲンボウのヘルパー行動の観察-母親から娘への給餌-	○秋山幸也（相模原市博），建部修（神奈川県内広域水道企業団）
11:00	0-C-23	「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」におけるチョウゲンボウの集団営巣地定着要因	○本村健（中野市歴史民俗資料館），常田英士（十三崖チョウゲンボウ応援団）
11:15	0-C-24	クマタカの再産卵の事例報告	野口将之，長野紀章，○紀國聡（株式会社建設技術研究所），風間基義（新潟県）
11:30	0-C-25	船舶用レーダーを用いたサシバ等猛禽類の飛翔高度観測について	宗田明彦（（株）テクノ中部），万木豊（三重大学），○陳有（テクノ中部）
11:45	総合討論		

ポスター発表

発表時間帯 奇数番号：13日 15:30から18:00 偶数番号：14日 9:30から12:00

番号	タイトル	発表者
P-1	セキセイインコにおける繁殖ペア解消によるコルチコステロン濃度の変化	兼定彩 ¹ , ○藤原宏子 ¹ , 酒井秀嗣 ² , 佐藤恵 ² , 窪田顕子 ¹ , 渡辺愛子 ¹ , 佐藤亮平 ³ , 宮本武典 ¹
P-2	ウミネコ成鳥の繁殖期におけるコルチコステロン分泌の変動	○佐藤恵 ¹ , 八嶋桂子 ² , 富田直樹 ³ , 塩谷正勝 ² , 若林修一 ¹ , 酒井秀嗣 ¹ ¹ (1. 日大・歯・生物, 2. 日大・生物資源・生産環境, 3. 大阪市大・院理・動物機能生態)
P-3	胚の成長に影響を与える卵の気孔密度のクラッチ内の相違	○富田直樹 ¹ , 岡田恵理 ² , 新妻靖章 ² , 高木昌興 ¹ (1. 大阪市大・院理・動物機能生態, 2. 名城大・農・環境動物)
P-4	オオミズナギドリの静止時の代謝速度-予報	○白井正樹 (長岡技大・生物), 岡奈理子 (山階鳥類研究所), 山本麻希 (長岡技大・生物)
P-5	ガンカモ類の排泄物中の窒素(N)、リン(P)及び炭素(C)の各含有率の比較	○中村雅子 (島根大・生物資源), 神谷要 (財) 中海水鳥国際交流基金), 森口紗千子 (東大・生物多様性), 相崎守弘 (島根大・生物資源)
P-6	羽衣が雄化したサンコウチョウ	○岩見恭子, 西海功 (国立科学博物館)
P-7	ハシブトガラスとハシボソガラスにおける顎筋の同定と筋重量の比較	○鎌田直樹, 遠藤紗綾香, 前川菜海, 青山真人, 杉田昭栄 (宇都宮大・農・動物機能形態)
P-8	日本産鳥類に見られる舌のいろいろ	○川口敏 (さぬき市在住)
P-9	混群形成：追従関係と音声コミュニケーション	○鈴木俊貴 (立教大・動物生態), 上田恵介 (立教大・動物生態)
P-10	つがい外交尾がツバメ雌にもたらす利益	○北村亘, 小島渉, 藤田剛, 樋口広芳 (東大・農・生物多様性)
P-11	実行性比が雄の父性防衛行動に及ぼす影響	○松田亜希子, 北村亘, 山口典之, 樋口広芳 (東大・生物多様性)
P-12	ダイトウメジロの親の巣防衛-複数種の捕食者モデルを提示したときの警戒反応と巣場所の関係	○堀江明香, 高木昌興 (大阪市大・院理・動物機能生態)
P-13	亜種ダイトウコノハズクにおけるなわばりの質と親の経験が繁殖成績に及ぼす影響	○赤谷加奈・松尾太郎・高木昌興 (大阪市大・院理・動物機能生態)
P-14	亜種ダイトウコノハズクにおける同一巣での一雄二雌による協同繁殖	○松尾太郎, 赤谷加奈, 高木昌興 (大阪市大・動物機能生態)
P-15	クマタカの給餌戦略は、猛禽類の逆転した性的体サイズ二型進化の仮説を支持する？	○金田大 (京大・理・動物)
P-16	色信号研究におけるなわばり雄への提示実験用モデル：色彩を可変可能な提示モデルの開発と対象個体からの反応の有無	○森本元 (立教大・理)・岩見恭子 (国立科博・動・研究資料センター)
P-17	果実保護袋に対するカラスの破壊行動および種や年齢による違い	○吉田保志子 (中央農研・鳥獣害研究サブチーム)
P-18	アマミヤマシギの交通事故は月夜に多い-月の明るさがアマミヤマシギの道路への出現に与える影響-	水田拓 ^{1, 2} , 鳥飼久裕 ² , 石田健 ^{2, 3} (1. 奄美野生生物保護センター, 2. 奄美野鳥の会, 3. 東京大学)
P-19	オガサワラノスリは、オガサワラオオコウモリのねぐらの平穏をみださない	○杉田典正 (立教大院・理), 上田恵介 (立教大・動物生態)
P-20	青森県で繁殖するオオセッカ個体群の個体数と生息環境	○高橋雅雄 (立教大・動物生態), 羽根田雄斗 (弘前大・農学生命科学), 宮彰男 (NPOおおせつからんど), 蛭名純一 (NPOおおせつからんど), 東信行 (弘前大・農学生命科学), 上田恵介 (立教大・動物生態)

P-21	マダガスカル固有種マダガスカルオオサンショウクイの繁殖生態	○館野光輝, 中村雅彦 (上越教育大学・生物)
P-22	繁殖分布からツバメの分散行動を探る	○リングホーファー萌奈美 (東大・総合文化), 藤田剛 (東大・農), 長谷川寿一 (東大・総合文化), 樋口広芳 (東大・農)
P-23	都会のカササギ、下町のカササギ	○橋本啓史, 土門未来 (名城大・ランドスケープ), 大畑孝二 (日本野鳥の会サンクチュアリ室), 李樹華 (中国農業大・園林)
P-24	モズの営巣場所選択と繁殖成功の関係	○遠藤幸子 (東邦大院・理・動物生態)
P-25	河川敷のウグイスは定住しているのか?	○内田博 (埼玉県)
P-26	ダイトウウグイスのさえずりと繁殖生態 (予報)	濱尾章二 (国立科博・自然教育園)
P-27	北海道の高山帯環境におけるヒバリの生息分布と生息地の特性	○白木彩子 (東農大・生物生産)
P-28	ヒヨドリはいつ、どこで、どのくらいの密度でさえずるか?	○山口恭弘, 斎藤昌幸 (中央農研・鳥獣害研)
P-29	人工物を利用したハッカチョウの集団営巣例	○三科康人 ¹ , 大竹明 ¹ , 金清翔 ¹ , 三科美香 ¹ (1. 外来鳥類研究会)
P-30	巣の海拔高度と親の体サイズとの関係- Little Penguins-	○宮崎正峰 (Waikato Univ., Biol. Sci.)
P-31	島根県隠岐諸島におけるカラスバト (<i>Columba janthina janthina</i>) の繁殖確認について	○星野由美子 (島根県立三瓶自然館), 深谷治 (隠岐自然村), 井上雅仁 (島根県立三瓶自然館)
P-32	市街地にねぐらを設けたトラフズク <i>Asio otus</i> の、冬季間の採餌について	岩本二郎 (長岡市立科学博物館)
P-33	フクロウの周年の巣箱訪問記録	○村松和行, 時田賢一, 斉藤安行, 寺田夏芽 (我孫子市鳥の博物館)
P-34	三宅島2000年噴火の影響は終わったのか? - メジロとヤマガラ の形態や分布の変化 -	○藤田薫 ¹ , 山本裕 ² , 藤田剛 ³ , 西海功 ⁴ , 山口典之 ³ , 樋口広芳 ³ (1. 東邦大・地理生態, 2. (財)日本野鳥の会, 3. 東大・農・生物多様性, 4. 国立科博)
P-35	樹洞営巣性鳥類3種の巣穴利用	○椎名佳の美, 東正剛 (北大院・環境科学)
P-36	広葉樹林と針葉樹人工林におけるキツツキの採餌痕密度の比較	○雲野明・明石信廣 (道立林試)
P-37	漁港の外灯はカモメ類に夜間の採餌環境を提供する	○平田和彦 (北大・水産)
P-38	神奈川県丹沢湖でのシジュウカラガン (大型亜種) の生息状況	○加藤ゆき (神奈川県博)
P-39	巢内録画からわかるゴイサギ (<i>Nycticorax nycticorax</i>) の活動周期と給餌生態	○小笠原義之 (弘前大・動物生態), 佐原雄二 (弘前大・動物生態)
P-40	コロニー形成時の行動からサギコロニーの形成プロセスと機能を探る	○遠藤菜緒子, 江崎保男 (兵庫県立人と自然の博物館)
P-41	標識をつけたアオサギの多摩動物公園繁殖地における滞在・帰巣パターン	白井剛 (都立大・理・動物生態)
P-42	神戸市西区および稲美町一帯におけるヒクイナの生息状況	渡辺美郎, ○平野敏明 (バードリサーチ)
P-43	ミゾゴイの繁殖ステージ - 渡来から雛の巣立ち後までの行動 -	○川名国男 (バードライフ・アジア)

P-44	Prediction of Wintering Grounds of Red-crowned Cranes in Hokkaido, Japan	Yi Liang Kuo (台湾大学大学院森林学科)
P-45	集落に生息するヤンバルクイナの利用	○井ノ口彰良(琉大院・理工), 環境省やんばる野生生物保護センター
P-46	育雛初期におけるクロアシアホウドリの探索・採餌行動について	○原田知子 ¹ , 出口智広 ² , 風間健太郎 ¹ , 鈴木創 ³ , 綿貫豊 ¹ (1. 北大院・水産, 2. 山階鳥研, 3. 小笠原自然文化研究所)
P-47	カンムリウミスズメの繁殖場所への移動とその方法	○中村豊 ^{1,2} , 児玉純 ² , 井上伸之 ² , 岩切康二 ² , 鈴木素直 ² , 友貞隆明 ³ (1. 宮崎大学フロンティアセンター生物資源分野, 2. 日本野鳥の会宮崎県支部)
P-48	東京におけるカモ科鳥類の減少傾向について	○川内博, 真下弘(日本野鳥の会東京支部)
P-49	気象観測機器ウィンドプロファイラによる鳥の渡りの把握と渡りに影響する気象要因	○植田睦之 ¹ , 島田泰夫 ² , 有澤雄三 ³ , 樋口広芳 ⁴ (1. バードリサーチ, 2. 日本気象協会, 3. 気象情報通信, 4. 東大・生物多様性)
P-50	ミヤマガラスの渡り衛星追跡 - 繁殖地の特定と渡りのタイミング	○高木憲太郎 ¹ , 時田賢一 ² , 平岡恵美子 ³ , 内田聖 ⁴ , 堤明 ⁵ , 藤田祐樹 ⁵ , 土方直哉 ⁵ , 植田睦之 ¹ , 樋口広芳 ⁶ (1. バードリサーチ, 2. 我孫子市鳥の博物館, 3. 東大・農・生物多様性, 4. 里山自然史研究会, 5. 沖縄県立博物館・美術館)
P-51	鳥類位置特定装置(GPSトランスポンダ)の開発について	○時田賢一(鳥の博物館, 野生環境保護無縁協会), 矢澤正人(数理設計研究所, 野生環境保護無縁協会) 玉置晴朗(数理設計研究所, 野生環境保護無縁協会), 樋口広芳(東大・農, 野生環境保護無縁協会)
P-52	繁殖北限域である岩手県中部におけるサシバの繁殖分布	○東淳樹 ¹ , 河端有里子 ² , 大島和峰 ² , 金子絵理 ² , 糸川拓真 ¹ , 河村朝朗 ¹ , 津田健伍 ¹ (1. 岩手大学・農, 2. 岩手大学・院・農)
P-53	岩手県におけるサシバの給餌動物と食物資源量	○河端有里子(岩手大学・院・農), 東淳樹(岩手大学・農)
P-54	育雛期におけるサシバの好適パーチ環境	熊谷徹 ¹ , ○大島和峰 ² , 河端有里子 ² , 金子絵理 ² , 東淳樹 ¹ :岩手大院・農(現農水省), 2:岩手大院・農, 3:岩手大・農
P-55	岩手県におけるサシバ <i>Butastur indicus</i> 育雛期の行動圏と採食環境	○金子絵理(岩手大・院・農), 東淳樹(岩手大・農)
P-56	サシバの全国繁殖状況調査結果	○大畑孝二(日本野鳥の会サンクチュアリ室), 植田睦之(NPO法人バードリサーチ), 東淳樹(岩手大学), 野中純(日本オオタカネットワーク)
P-57	栃木県山地部の森林地帯に生息するオオタカ雄成鳥の行動圏	○堀江玲子, 遠藤孝一, 野中純(オオタカ保護基金), 尾崎研一(森林総研)
P-58	渡良瀬遊水地におけるチュウヒの越冬期後半の行動圏と移動	○遠藤孝一(オオタカ保護基金・日本野鳥の会栃木県支部)
P-59	北海道十勝地方におけるオオタカとハイタカの営巣環境	○平井克亥, 柳川久(帯畜大・野生動物)
P-60	落葉広葉樹の展葉に伴うイヌワシ <i>Aquila chrysaetos</i> の給餌様式の変化とその影響	○布野隆之 ¹ , 関島恒夫 ¹ , 阿部學 ² (1. 新大大学院・自然科学, 2. 日本猛禽類研究機構)
P-61	サシバの行動生態-尾は口ほどにもの言う!?-	○伊関文隆(NPO法人希少生物研究会)
P-62	麻酔薬 α -クロラロースを用いて繁殖中のカワウを捕獲できるか	○有馬智子(筑波大・生物資源)・藤岡正博(筑波大・農技センター)
P-63	有害捕獲がカワウの行動にもたらす影響	○富永光(筑波大・生物資源), 藤岡正博(筑波大・農技センター)
P-64	新潟県におけるカワウの繁殖分布と漁業被害の関係について	○山本麻希(長岡技科大・生物系), 桑山大実(長岡技科大・生物機能工学), 森直也(新潟県内水試), 伊藤陽人(新潟県内水試)
P-65	関東地域のカワウねぐらの分布変化に影響する要因- 景観や過去の分布などの空間配置はどのように影響しているか-	○熊田那央, 藤田剛, 樋口広芳(東大・農・生物多様性)
P-66	カワウの分布変化の経緯と利用地域の特徴- 関東地域のねぐら調査より-	○加藤ななえ(バードリサーチ), 金井裕(日本野鳥の会)

P-67	コアジサシの亜種間にみられるハプロタイプの共有	○染谷さやか ¹ , Philip D. Round ² , 西海功 ³ , 樋口広芳 ¹ . 東京大学大学院・農・生物多様性科学 ² . Mahidol University, Thailand ³ . 国立科学博物館
P-68	オオタカの遺伝構造とpopulation history	○高木義栄 (九大・システム生命科学), 河原孝行 (森林総研・北海道), 北村尚士 (EFP), 遠藤孝一 (オオタカ保護基金), 工藤琢磨 (森林総研・北海道)
P-69	越冬地と中継地におけるマガン個体群の遺伝的構造	○森口紗千子 ¹ , 内山憲太郎 ² , 江田真毅 ³ , 天野達也 ⁴ , 牛山克巳 ⁵ , 藤田剛 ¹ , 樋口広芳 ¹ (1東大・農・生物多様性, 2東大・農・森園管理, 3鳥取大・医・形態解析, 4農環研, 5宮島沼水鳥・湿地センター)
P-70	北海道に生息するタンチョウの個体群持続性分析 (2008年版)	○正富欣之 ¹ , 正富宏之 ² (1. 北大院・地球環境科学, 2. NPO法人タンチョウ保護研究グループ)
P-71	利根川下流域における水鳥の越冬地復元	○荒尾稔 (日本雁を保護する会)
P-72	アボイドマップ作成に向けたバードストライクの研究	○北野雅人 ¹ , 白木彩子 ² , 石山浩一 ³ , 東正剛 ¹ (1北大・環科院, 2東農大, 3森林環境リアライズ)
P-73	NPO法人 リトルターン・プロジェクトー活動の経緯と今後の展望ー	○柴田英美 ^{1,2} , 染谷さやか ^{1,3} , 北村亘 ^{1,3} , 佐々木太毅 ^{1,4} , 増田直也 ¹ (1. NPOリトルターン・プロジェクト, 2. (財)日本野鳥の会・サンク室, 3. 東大・農・生物多様性, 4. 明大・農・応用植物生態)
P-74	ナベヅルの越冬地における環境選択ー冬季湛水田は越冬環境整備に有効か？ー	○増山雄士 (北大 (院)・文学研究科/周南市教育委員会)
P-75	ITU-D SG2課題14で採択された鳥インフルエンザ東京宣言に関して	○中島功, 北野利彦, 十蔵寺寛 (東海大・医学部)
P-76	草原性鳥類を対象としたラインセンサスで確認できる種と調査回数との関係について	○玉田克巳 (道環境研)
P-77	岡山大学演習林における鳥類と植生の関係 - 鳥類は群落をどのように利用しているのか？ -	○奥田圭 (宇大・院・農), 小金澤正昭 (宇大・演習林), 波田善夫 (岡山理大・総情)
P-78	森林の成熟は森林性鳥類・哺乳類の分布を国土スケールで変化させるか？	○山浦悠一 ¹ , 天野達也 ² , 小泉透 ¹ , 光田靖 ¹ , 滝久智 ¹ , 岡部貴美子 ¹ (1. 森林総研, 2. 農環研)
P-79	四万十川流域における繁殖期の陸生鳥類群集の変化-1980年代と比べて減少した種としない種-	○佐藤重穂 (森林総研四国支所), 濱田哲暁 (東洋電化工業)
P-80	熱帯湿潤地域の樹園地を利用する鳥類の季節性	○片岡美和 ¹ , 岩田明久 ¹ , Dewi M. Prawiradilaga ² (1. 京大院・アジアアフリカ, 2. LIPI, Indonesia)
P-81	小川学術参考保護林における繁殖鳥類群集の15年間の変遷	東條一史 (森林総研)
P-82	カメラトラップも使しようー果報は寝て待つ鳥類調査ー	○関伸一 (森林総研・九州)
P-83	東京湾奥部の海岸における鳥類相	桑原和之 (千葉県立中央博物館), ○箕輪義隆, 岡典弘, 和仁道大 (千葉市野鳥の会), 小田島高之 (千葉県立中央博物館), 佐藤達夫 (行徳野鳥観察舎友の会)
P-84	ヤマガラによるエゴノキ属2種の果実の持ち去りについて	○舟橋美帆 (名大院生命農), 長瀬ほなみ (名大院生命農), 梶村恒 (名大院生命農)
P-85	鳥類による種子散布: 鳥種と植物種の結びつき	○宮下友美 (帝京科学大・アニマルサイエンス), 濱尾章二 (国立科博・自然教育園), 森貴久 (帝京科学大・アニマルサイエンス)
P-86	茶の湯の羽箒と盆石の羽	○下坂玉起

高校生発表

番号	タイトル	発表者
K-1	ガラパゴス島での鳥類の観察	清真学園高等学校 平城峻（高2）・池田真理子（高2）・佐藤隆太郎（高1）・門井悠（高1）・根元奈緒（高1）・金子桃子（高1）・左近優美（高1）・佐藤敬近（高1）
K-2	（仮称）都市の中規模公園（和田堀公園・井の頭公園）における野鳥	東京都立立川高等学校 古木香名（高2）

自由集会

13日 18:00から20:00

番号	会場	タイトル	主催者
M-1	AB01	森林性大型猛禽類の採餌環境改善の取り組みとその課題	高橋誠（猛禽類保護センター活用協議会），前田琢（岩手県環境保健研究センター），根本理（日猛研フォーラム）
M-2	X301	第10回東アジアガンカモ類ネットワーク支援鳥学者グループ(JOGA)研究集会ーガンカモ類外来種の現状と対策及び今後の課題ー	呉地正行 ¹ ，須川恒 ¹ ，大畑孝二 ² （1. 日本雁を保護する会，2. 日本野鳥の会）
M-3	X302	鳥の記録を発表しよう！ー鳥類分布記録収集の課題	池長裕史 ¹ ・梶田学 ² ・亀谷辰朗 ³ ・平岡考 ⁴ ・柳澤紀夫 ⁵ （1. 中央農研センター，2. 京都市北区，3. 千葉縣市川市，4. 山階鳥研，5. 日鳥連； 1ー5. 日本産鳥類記録委員会）
M-4	X304	日本における稀少海鳥類の現状と保護	伊藤元裕（北大・水産），新妻靖章（名城大）
M-5	X305	日本におけるフクロウ研究の現状・課題・将来	樋口亜紀（国立科博・動物）、東信行（弘前大・農学生命）
M-6	X306	第13回ちょっと長めの話を聞く会	中村雅彦（上越教育大・生物）

15日 13:00から15:00

番号	会場	タイトル	主催者
M-7	AB01	ーカワウを通して野性生物と人との共存を考える（その11）ー カワウのコロニー管理	カワウワーキンググループ，世話人加藤ななえ（バードリサーチ）
M-8	X304	野鳥を知るための学習教材ー屋内でも環境教育ー	大畑孝二・脇坂英弥・原田修（日本野鳥の会サンクチュアリ室）・西野文智・橋口朝光（千葉県木質バイオマス新用途開発プロジェクト）・桑原和之（千葉県立中央博物館）
M-9	X305	愛知県渥美半島 大山での陸上自衛隊ヘリコプター訓練問題を考える	大羽 康利（渥美自然の会）